



営農NEWS



— 不安定な天候が続いています —

施設やさい（トマト、キュウリ、ピーマン、イチゴ、メロン、スイカなど）の灰色かび病など病害発生に注意し、防除を徹底してください

今年はやさいの開花が例年に比べてやや早かったのですが、4 月に入り、日照時間が短く、降雨や強風の日が続いて、施設の換気など栽培管理に気を使う日が続いていることと思います。このような条件が続くと、各種野菜の灰色かび病など病害の発生しやすい環境条件になるため、十分な注意が必要になります。

4 月 9 日発表の 1 ヶ月予報によりますと、「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。降水量は多い確率 50%で、日照時間は平年並または少ない確率 40%です」と予想されています。このため、今後とも病害の発生に適した条件と予想されますので、更に十分な注意と、病害の早期発見、早期防除に努めてください。なお、既に発病している場合には、今後の急激な病勢進展を抑えるため、耕種的防除と合わせて徹底した薬剤防除を行う必要があります。

今後、特に注意を要する主な病害としては、下記のものがあります。

- 1) トマト 灰色かび病、葉かび病、疫病、菌核病など
- 2) キュウリ 灰色かび病、べと病、褐斑病、うどんこ病、菌核病など
- 3) ピーマン うどんこ病、菌核病、灰色かび病、斑点病、疫病など
- 4) イチゴ 灰色かび病、うどんこ病など
- 5) メロン、スイカ つる枯病、菌核病、炭疽病、べと病、うどんこ病など

なお、軟弱徒長した作物では、病害が発生しやすくなりますので、適度な整枝剪定や灌水量、施設内の換気や良好な通風、除湿など栽培環境を改善するとともに、晴天の日で、夕方までには薬液が乾くような時間帯に、殺菌剤の散布を株元や葉裏にもかかるよう丁寧に行うことが重要です。また、施設内が常に過湿な環境では、くん煙剤を利用することも有効です。

【防除のポイント】

- 1 管理作業として常に、株間の通風をよくするための整枝剪定、樹勢を維持するための適正な灌水や追肥、施設内の適正な温湿度管理などに努めてください。
- 2 被害茎葉や果実などは出来るだけ施設外に持ち出して、放置せず（伝染源にならないよう）に袋内で十分に腐熟させるか土中深く埋めましょう。
- 3 農薬防除にあたっては過去の「営農NEWS」を参考に、収穫前日数や総使用回数に注意して実施してください。
- 4 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、同一系統の連続散布は避けて、ローテーション散布してください。

- 1) トマト灰色かび病の防除については「営農NEWS 第2342号（平成27年3月3日発行）」を参照してください
- 2) トマト葉カビ病の防除について「営農NEWS 第2332号（平成27年1月9日発行）」を参照してください
- 3) キュウリ菌核病、灰色かび病の防除については「営農NEWS 第2340号（平成27年2月19日発行）」を参照してください
- 4) キュウリべと病、褐斑病の防除については「営農NEWS 第2333号（平成27年1月16日発行）」を参照してください
- 5) ピーマンうどんこ病の防除については「営農NEWS 第2328号（平成26年12月8日発行）」を参照してください
- 6) イチゴのうどんこ病、灰色かび病の防除については「営農NEWS 第2334号（平成27年1月20日発行）」を参照してください
- 7) メロン病害の防除については「営農NEWS 第2351号（平成27年4月2日発行）」を参照してください
- 8) スイカ病害の防除については「営農NEWS 第2344号（平成27年3月6日発行）」を参照してください

（※ 過去の「営農NEWS」は全農いばらきホームページで閲覧できます）

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040